

称名念仏するとは

近藤 龍譲

皆さんは最近、南無阿弥陀仏と声を出して唱えておられますか？仏壇の前で、月参りで、法事の席で、南無阿弥陀仏と心の中に留めず、声に出して念仏しておられますか？

私は最近、この念仏を声に出して唱える、称名念仏ということについて考えています。本願寺8代目の門首であります蓮如上人は、「南無阿弥陀仏」と唱える称名念仏、御念仏を申すことが、浄土真宗に生きる者として大事なことでであると説いておられます。

蓮如上人の説かれたことについて、私たち浄土真宗の門徒に一番なじみがあるのは、お勤めの後に拝読する御文でしょう。特に「末代無智の在家始終の男女たらんともがらは」から始まる御文は聞きなじみがあるのではないのでしょうか？この「末代無智」の御文の中に「一心一向に仏たすけたまえと申さん衆生をば、たとい罪業は深重なりとも、かならず弥陀如来はすくいましますべし、これすなわち、第十八の念仏往生の誓願のころなり、かくのごとく決定してのうえには、ねてもさめても、いのちのあらんかぎりは、称名念仏すべきものなり」と記しておられます。

これは、浄土真宗の本尊であります阿弥陀如来が立てられた一切の衆生を救うという本願を、私たちが疑うことなく、その願いにおまかせする。そうすれば自分中心に好き勝手に生きてきたような罪深い私たちでも、必ず阿弥陀仏が御救いくださるということです。そしてそのように阿弥陀仏の願いをいただくことができたなら、いのちの限り念仏を申すべきですと説いています。

私は、南無阿弥陀仏と念仏を申すことは、自らの心を映しだし、今の自分の心を確認することでないかと思えます。その為の鏡のようなものではないでしょうか。

私は今、どのように生きているか、自己中心な生き方をしいないか、誰かを傷つけるような心無いことをしていないか。それを自分に問う為の鏡であると思えます。

この度起こった熊本地震の現場では、被災した家からの窃盗が相次いでいると聞きます。まったく自己中心な振る舞いであると憤りを覚えています。こういう時こそ念仏を通して、自らの姿を見つめなければならぬと感じます。善い時も、悪い時も、南無阿弥陀仏を通して自分の心・姿を確かめる。

仏のご縁を感じた時、自然と口から「南無阿弥陀仏」という言葉が出てくる、それが信心を獲ることであり、その為の手だてが称名念仏ということではないかと思えます。